

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	わらべうた桜新町保育園
施設所在地	世田谷区桜新町1丁目1番6号
法人名	HITOWAキッズライフ株式会社

1. 活動のテーマ

<テーマ>

運動遊び

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

園庭はないが、室内での活動や屋上、散歩を通して運動遊びを行っている。
体を動かすことを楽しんでいるが、十分に遊び込めていない様子や、体幹の育ちをより促したいと感じていた。子どもが楽しみ、もっとやりたいという気持ちを大切にしたい遊びの充実と、挑戦したい気持ちも育てていきたいと考えた。

2. 活動スケジュール

取組み内容の検討

- ・運動をどのように感じているかを子どもと一緒に話し合う。
(年齢に応じて、子どもの様子から保育者が考える。)
- ・0～4歳児クラスで取り組む(5歳児は運動遊び指導のみ参加)
- ・0歳児は運動指導には参加しないが、マットを中心として、発達に応じた遊びを展開する。

専門講師による運動指導(1回目)

- ・9月1日保育室にて実施。(1～5歳児)
1・2歳児はマット、3・4歳児はマットと平均台での運動遊び。
- ・保育士は指導後に講師と振り返りを実施。
- ・その後、クラス毎に週2～3回程度、マットや平均台を使った運動遊びを継続して行う。

専門講師による運動遊び指導(2回目)

- ・10月10日屋上にて実施。(1～5歳)
- ・屋上に設置した鉄棒での運動遊び。
- ・保育士は指導後に講師と振り返りを実施。
- ・その後は、鉄棒も含めた取り組みをクラス毎に継続(鉄棒は屋上、他は室内)。

保護者への発信

- ・日々の活動報告、園だよりでの周知の他、10月までの取組みの様子をクラス毎にドキュメンテーションを作成して配信(11月初め)。

専門講師による運動遊び指導(3回目)

- ・12月2日屋上にて実施(1～5歳児)
鉄棒、平均台での運動遊び。
- ・保育士は指導後に講師と振り返りを実施。
- ・講師から助言を受け、遊びやすく楽しめるよう屋上の配置を工夫する。
- ・平均台、マット、鉄棒に加え、ポールやコーン、パー等も活用して遊びを展開。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

粗大運動の充実(購入)

カラーマット(赤・青・黄・緑) マットの色や長さの違いを生かして、子どもの理解を促し、活動の充実につなげる
鉄棒 高さ3種類 高(赤)・中(青)・低(黄) 年齢や発達に合わせて遊ぶ
平均台 高さ2種類 高(赤・青・黄)・低(赤・青・黄・緑)組み合わせて幅広の平均台としても使用

運動遊びのバリエーションを広げや友達と楽しむことに活用

リングバトン 平均台等の遊具を活用したリレーや、遊びの展開に使用
カラフルボール 運動遊びのバリエーションを広げる リレーにも使用
室内用折りたためる平均台 乳児クラスでも気軽に楽しめるように活用
コーンとパー リレーの中や遊びに使用する等、工夫し楽しめるよう活用

環境構成

屋上の活用 当初鉄棒のみを屋上にて使用したが、平均台も数台常設とした。
(走るの広さも確保しつつ、やりたい気持ちを満たせるよう、設置場所や確認事項を変更)
乳児クラスの室内での活動も充実できるように、出し入れしやすい設定。
遊びのバリエーションも広がるよう、遊具を導入。

体育指導料

講師による運動遊び指導料

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

・運動遊びでやりたいことや、イメージしていることを、子どもと一緒に話す。
好きな動きや遊び、運動のイメージ、やりたいこと、運動靴について等の話が聞かれた。走る、ケンケン、マット、身体を鍛えたいという意見から取り組み始めた。

・子どもが理解しやすく、楽しみ、様々な動きを楽しめるような遊びや環境を設定。
遊具の色を活用して、場所や活動をわかりやすくする。マットの長さの違いを生かしてバランスのとれた運動ができるよう整える。各クラスで、週2～3回の取組を行った。

・運動指導に1歳～5歳児が参加。年齢に応じて、マット、平均台、鉄棒、リレー等を楽しむ。(年3回)

・0歳児は主にマットを使用。マットの上で、ハイハイや歩くなど繰り返して楽しんだ。→ 登りたい意欲やトンネル遊びが好きな様子から、マットに傾斜をつけたり、トンネルにして全身を使い、目的のある動きに発展していった。

・1・2歳児は、動物をイメージした動きを楽しむ。はじめは逆方向に行く子もいたが、マットの色や、保育士とのハイタッチ、他児の動きに関心をもちまねする等から、理解が深まり、友達と一緒に遊ぶ楽しさが広がった。→ 体の向きを変える、片足で進むなど自分の体をコントロールすることにも興味を持ち、やってみようとする姿が見られた。幼児クラスの様子を見て、鉄棒でぶら下がる、足をバタバタさせるなど新しい運動に挑戦する姿も見られた。

・3・4歳児は、マットではケンケン、ジャンプ、横歩き等、平均台では、くぐる、片足ずつ交互に上り下り、腹ばいで腕の力で進む等の動きを楽しむ。→ 友達を押さないというルールに「抜かしてよいの?」と戸惑う姿があったが、友達のことを意識して遊ぶ姿が増えていった。更にリレーでは友達を応援し、リレーの中でコーンやボール等の遊具を使った動きを取り入れると、友達と確認したり、どうすれば上手くできるかを考えたりして楽しんだ。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

・順番を守ることよりも、「友達を押さない」という最小限のルールの中で、子どもが自発的に活動することを大切に。自分の思いを優先させてトラブルになる姿が多く見られたクラスでも、自分のペースで楽しむ経験を重ねることで、友達との距離感や相手の思いに気づき、どう動けば良いのかを考える姿が見られるようになった。この姿は、他の活動にもつながっていった。

・保育士は注意や否定をせず、良いところや子どもの発想の楽しさを共有するようにした。混乱が生じそうな場面では、どうすれば安全かを問いかけ確認する時間を持つようにした。また、一つ一つの活動で保育士とハイタッチをして、楽しさや喜びを共有して信頼関係の深まりにつながった。

・0歳児では、マットの上でハイハイや歩く楽しさを感じ、繰り返し楽しんだ。トンネルの形にして“くぐる”こと、マットに傾斜をつけて“よじ登る”ことも楽しんだ。体の向きを変える等、全身の使い方が上手になり、嬉しそうな表情が見られた。保育士とのハイタッチで気持ちが通いあい、楽しい時間を重ねていった。

・1・2歳児では、当初は進む方向がわからず戸惑う姿もあったが、色や保育士とのハイタッチを意識することで、安全に活動を楽しめるようになっていった。マットでは、子どもの好きな動物、制作活動や歌で親しんだカエルの動きを表現するなど、他の活動とのつながりも楽しんだ。鉄棒では、手の届きそうな高さに気づいて挑戦し、ぶら下がることができた時の笑顔から達成感が伝わってきた。鉄棒の支柱部分に登って周囲を見渡している友達と同じように登り、顔を見合わせながら共感しあう姿も見られた。

・3・4歳児では、マットと平均台、鉄棒と平均台を組み合わせで活動した。忍者をイメージした動き、好きな動物の動きも楽しんだ。ケンケンや方向転換等、動きに変化をつけることで意欲的に挑戦する姿が見られた。鉄棒では友達の様子を見て新しい技にも挑戦し、達成感を分かち合う姿が多く見られた。バランスじゃんけんやリレー等の集団遊びも楽しみ、リレーでは途中でコーンを倒す、起こすといった手順を加えて少し難しいことにも挑戦した。リングをコーンにかける、ボールを使ったリレー、バーを跳び越える等、友達や保育士とルールを考えながら意欲的に体を動かした。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

取組み前・・友達との距離感が難しい面があり、トラブルが起こりやすい状況があった。また、十分な活動量が確保できているか、一人ひとりが満足できる挑戦ができていくかということに、課題を感じていた。安全やルールを大切にするために、順番を守るということを伝えることも多かった。

取組みでの変化・・子どものタイミングや意欲を大切に、講師からの学びも生かした環境設定を行った。友達を押さないというルールの中で、「抜かしてよいの？」という戸惑いがあったが、子ども自身が考えて友達を意識して動く姿が増えていった。幼児クラスでは、どうすれば上手くいくかを考え、リレーでも友達の頑張りに気づき、応援する姿が見られた。幼児クラスの取り組みを見て、乳児クラスでもやってみようとする姿が広がっていった。

・0歳ではマットを中心に取り組んだが、発達に応じて子どもの様子や繰り返し遊ぶ姿から捉えて工夫し、継続して楽しんだ。子どもの姿、思いを受け止め、環境を工夫する大切さを感じた。また、保育士とのハイタッチも子どもと心の通じ合う機会となり、達成感や満足感につながった。

保育士の気づき・学び・・講師との振り返りの中でも、環境設定の重要性について、子どもの意欲を捉えて工夫することの大切さを学んだ。環境を整え、子どもが自らやってみることを見守る価値や、子どもが楽しみ、熱中して遊ぶことで自らが育っていくこと等を学んだ。ハイタッチで達成感を共有することができ、子ども自身の満足につながり、信頼関係を深めることのできる大切な関わりの一つであることにも気づいた。

今後に向けて・・安心できる環境で、自らやってみたいと思えるような見守りを行う。子どもが「もう少し頑張ればできる」「やりたい」と思えるような環境設定を行い、子どもと達成感の共有、満足感が持てるよう取り組んでいきたい。リレーや運動遊びのバリエーションを子どもと一緒に考え、友達とのつながりを深めていくよう充実させていきたい。